



[今月の聖書]

「もしあなたがたが、いたずらに信じないで、わたしの宣べ伝えたとおりの言葉を固く守っておれば、この福音によって救われるのである。わたしが最も大事なこととしてあなたがたに伝えたのは、わたし自身も受けたことであつた。すなわちキリストが、聖書に書いてあるとおりの、わたしたちの罪のために死んだこと、そして葬られたこと、聖書に書いてあるとおりの、三日目によみがえつたこと。」(I コリント 15:2-4)

「すなわち、わたしたちは、土に属している形をとっているのと同様に、また天に属している形をとるであろう。」
(I コリント 15:49)

「しかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであろう。」(ピリピ 3:20, 21)

聖書に「最初の人アダムは生きたものとなつた」と書いてあるとおりでである。しかし最後のアダムは命を与える霊となつた。(I コリント 15:45)

「しかしわたしたちは、この宝を土の器の中に持っている。その測り知れない力は神のものであつて、わたしたちから出たものでないことが、あらわれるためである。わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会つても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、この身に現れるためである。」(II コリント 4:7-10)

「わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう。」(ヨハネ 6:40)

お元気でお過ごしでしょうか。今月は「復活を信じる人」という題でお話ししましょう。テキストの中心は第一コリント 15 章です。クリスチャンとはイエス・キリストを救い主として信じる者たちです。それはイエス・キリストの十字架と、復活に象徴される福音を信じ受け入れた者たちです。十字架は私たちの罪の解決の鍵です。しかし復活はその結果神がおあたえくださる大なる賜物です。十字架によってアダム以来人類が抱えてきた罪が、赦され、清められる道が開かれたのです。イエス・キリストはそのために限りない謙遜と苦痛と十字架の死を味わわれました。父なる神はキリストの完全なる謙遜に対して、勝利の復活を与えられました。復活は私たちの信仰によって与えられるものではなく、神の恵みによって与えられるものです。そこでクリスチャンである私たちはキリストの十字架の道を歩み続けるならば、復活の恵みにも預かるのです。十字架の道は祈りであり、復活は賛美です。

このように復活を信じる者たちの人生がどんなに素晴らしいものであるかを証したいのです。いかなる逆境も、試練も、問題課題も全て感謝して受け取ることができます。神は十字架の悲しみを、復活の賛美に変えてくださるお方です。このような生き方があなたのものとなりますように願っています。

(お知らせ)

* 地区集会のご案内

9月30日(月) 宮崎集会 (お問い合わせ 永田良子 09084041196)

10月1日(火) 鹿児島集会 (お問い合わせ 武田朋子 08017072324)

10月8日(火) 13:00 CFI 横浜集会 (福音喫茶メリー TEL 045-231-6773)

10月16日(水) 11:00 水曜礼拝 (自由が丘チャペル)、14:00 ジョイコーラス (自由が丘チャペル)

* 10月11日(金) 19:00 東日本大震災復興支援超教派一致祈祷会 (淀橋教会)

◆◆◆ CFI 会員 投稿原稿 第 69 回 ◆◆◆

「『きょうの聖書』を読んで」

横塚靖子（神奈川県）

このたび出版された「きょうの聖書」を手にして、聖書を読む嬉しさを新しく体感しております。

幼い時より教会生活をし、日曜学校での聖句の暗唱、女学校での聖書の時間、大学でのキリスト教概論の学びは一体私の心の中にどんな響きを与えていたのであろうかと思ひ返しますと、ほとんど残っていないことに気づかされました。

早速 10 冊ほど購入し、お友達にプレゼントしました。2 週間前に、ご主人が癌を宣告されて落胆していた友人は、「御言葉が心に響きました。今日から枕元に置いて寝ます」と言ってきました。

本人が膵臓癌で、ただいま抗がん剤の治療を受けている後輩は、「心に染みる言葉に感じ入りながら、繰り返し読んでいます」と言っています。

また、2 年前にご主人をなくし、1 年間鬱状態になってしまった同級生は、「心に染みる優しさに包まれて癒されました。現実をしっかり受け止めて前向きに過ごしたいと思います」と言ってきました。

実はこのような友人たちに手紙を書いて、何かさしあげようと思っても適切な言葉がなくて探し求めていたのです。

私も 60 歳のときに C 型肝炎が発症しました。当時 30%しか完治しないと告げられましたが、私は「神様がついていて下さるから大丈夫」と信じ、何のためらいもなく、不安もなく治療を始めました。これまでも幾度と無く聖書の御言葉によって励まされましたが、その時に与えられた御言葉は「あなた方の会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなた方を耐えられないような試練に会わせる事はないばかりか、試練と同時にそれに耐えられるように、逃れる道も備えて下さるのである。」（コリント第一 10:13）でした。

小田先生はこの御言葉について、「人生には試練はつきものです。しかし神は無意味な試練は与えません。それは必ずあなたのためにプラスとなるご計画です。まもなく暗いトンネルを抜け出す道が備えられるでしょう。」とコメントしてくださいました。全くその通りの体験をし、今日、感謝と賛美の生活をさせていただいています。まさにここに聖書の貴い御言葉の真髓があるのだと思います。



◇投稿募集のご案内◇

皆様の原稿をお待ちしています。

毎月のCFIニュースレターの裏面に順次掲載させていただきたいと思います。

- ・すくい体験のあかし
- ・個人的願いや祈り
- ・信仰生活のあかし
- ・主にある交わりのレポート
- ・最近気づいたことや発見したみことば
- ・CFIメッセージの感想や教えられたこと

何でも結構です。800字程度で、手紙、ファックスかメールで送ってくだされば幸いです。